

「宗教なくして一物もなし」

神靈の世界を大精神界という。宇宙大自然の靈力の働きを神という。宇宙を司る自然の靈力の働きは名前もなく名稱もつけ難い。人間界と自然界とは異なる。人を靈界で觀るならば、神靈元子しんれいげんしが網の如くに交こ又状まになつて纏まり、一人の人が構成される。多少にも修行があつて、知識を超越し、わが意志を用いず、精神的に神の御意思の儘、素直に靈界に進んで觀るならば、萬事微細に靈線が網の如くに陰・陽に働き、絡まつて一つのもものが纏まつている姿に実に驚くの外はない。宇宙の神靈元子が働いて萬物に力を与えて、生命を支配するは神の御働きである。天地萬物の大精神を靈界で眺めれば、余りにも広大であるから何とも話しきれない。靈智靈覺者れいちれいかくしゃが靈界を觀て説くところを、萬人はその儘承知することが一番簡單である。靈界を眺めれば偉大なことを知る。精神的に御神意に通じて宇宙をわが家と心得て神と共に生活する大度量が起こるもので、これで神の大精神より萬事の教を引き出して地上に神の御意思を取り次ぐのである。靈界をきわめれば神の大精神へ到達する。人は神に操られておることを知る。神の大精神に基づいて生活すれば、宇宙という家に住むことが明章となる。宇宙の御意思を大教育して教え、人に靈を鎮めて神の御意思に基づいて活動するのが神の御意みこころの現れである。靈界を知らずして嘴くちばしを入れるのは精神的に罪を作る。この理をよく味わうことが大切である。

「宗教なくして一物もなし」という一言に事は尽きる。